

施策 4 多様なニーズに対応した教育の推進

指標 1	【項目】 特別支援学級設置率			【説明】 市立小・中学校の特別支援学級設置率				
	単位	現在値 (R1)	実績値					目標値 (R7)
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	%	61.1	69.0	77.8	83.3			100
担当課評価								
【担当課】 教育センター ・進捗は順調です。 ・「川越市特別支援教育の推進に関する計画」に基づき、計画的に特別支援学級を設置しています。 ・未設置校については、教育的ニーズを十分に考查した上で順次設置します。								
指標 2	【項目】 特別支援教育に係る教職員研修達成度			【説明】 特別支援教育に係る管理職等研修会をはじめ、特別支援教育に係る7講座の達成度の平均（5段階評価）				
	単位	現在値 (R1)	実績値					目標値 (R7)
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	—	4.3	4.3	4.3	4.3			4.5
担当課評価								
【担当課】 教育センター ・進捗は順調です。 ・コロナ禍のため、対面・集合型研修に加えて、オンライン研修（同時双方向型・オンデマンド型）を実施しました。 ・今後も研修の内容や方法を工夫し、教職員が特別支援教育に係る実践的な指導力を高められる研修の実施に努めます。								
指標 3	【項目】 臨時講師（オールマイティーチャーター）配置の効果調査において「向上」と回答した割合			【説明】 臨時講師配置の効果調査において「向上」と回答した割合				
	単位	現在値 (R1)	実績値					目標値 (R7)
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	%	64.8	81.2	75.9	80.8			75
担当課評価								
【担当課】 学校管理課 ・進捗は順調です。 ・各学校の諸課題を明確にすることにより、諸課題に対し計画的・意図的な対応が図れました。 ・学校においては、教員数が増えたことにより、児童生徒・保護者への丁寧な対応が図れました。今後も計画的な配置を進めます。								

施策 4 多様なニーズに対応した教育の推進

総合評価

A

総合評価について	進捗は順調であり、評価も良好です。現在値から比べても良好な実績値を維持しています。個に応じた指導や支援を必要とする児童生徒が、年々増加していることから、今後も保護者や管理職を含めた教職員が、特別支援教育への理解を深められるようにするとともに、特別支援学級の設置や支援員等の配置を計画的に進め、多様なニーズに対応した教育の推進を継続します。
----------	---

学識経験者等	・子ども達一人ひとりの教育的ニーズが違うため、一人ひとりに応じた支援が必要であるという理解は浸透していると感じる。引き続き、支援を必要としている児童生徒に応じ、学級運営支援員や特別支援教育支援員の配置を進め、多くの学校で誰もが自分に合った教育を受けられるよう努めていただきたい。 ・特別支援教育に対するニーズが高く、また多様化しているため、知見や人材を備えた民間施設との連携や情報交換も視野に入れた検討をしていただきたい。 ・学校に通わない外国籍の子ども達への対応については、教育委員会所管ではないかもしれないが、そのような子ども達への配慮を含め、引き続き注視していただきたい。
--------	---

【施策】 4 多様なニーズに対応した教育の推進

【施策の柱】 (1)特別支援教育の充実

細 施 策	①一人ひとりのニーズに応じた指導や支援の充実	担当課	関連指標
		教育センター	指標1
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ教育システムの構築を推進し、全ての児童生徒が十分に共に学ぶことや個に応じた指導・支援が受けられるように環境の整備に努めます。 ・通常の学級に在籍する軽度言語・聴覚障害や発達障害等のある子どもに対して、通級指導教室を活用し、障害に応じた支援の充実に努めます。 ・市立小・中学校に設置している特別支援学級の児童生徒一人ひとりの実態や障害の特性等に応じた指導・支援の充実に努めます。 ・特別支援学級の全校配置に向けて、今後も計画的な配置を進めていきます。 		
令和4年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ・学級運営支援員配置 33名 ・特別支援教育支援員配置 64名 ・特別支援学級の新設準備 4校（今成小・上戸小・野田中・川越西中） ・発達障害・情緒障害通級指導教室担当者への巡回相談 11回 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・難聴・言語障害通級指導教室には、児童120名が通級しており、発達障害・情緒障害通級指導教室には、児童121名、生徒48名、合計169名の児童生徒が通室しています。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態に合わせた支援を行うために、教職員の特別支援教育に対する理解と児童生徒の理解をさらに深める必要があります。 ・支援を必要としている児童生徒に応じ、学級運営支援員や特別支援教育支援員の配置が必要です。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育に係る研修内容の充実を一層図り、一人ひとりに応じたよりよい支援のために学校全体で特別支援教育に関する理解をさらに深めていきます。 ・各学校での配慮が必要な児童生徒の状況を把握し、支援についての指導・助言を行うとともに、ニーズに応じた学級運営支援員や特別支援教育支援員の配置に努めます。 		

細 施 策	②就学支援の充実				担当課	関連指標
					教育センター	—
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じて、柔軟に学びの場を選択したり、支援方法を相談したりできるように継続的な就学相談を行い、個に応じた支援に努めます。 ・川越市児童発達支援センターや就学前施設、学校、保護者等と情報を共有し、切れ目のない支援を行います。 					
令和4年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ・就学相談者 335名 ・延べ就学相談実施件数 748件 ・就学支援委員会の意見と就学先が合致した割合 87.2% ・通常の学級、特別支援学級及び特別支援学校の意見が出されたうちで、経過観察が必要となった者 138名（意見と異なる就学をした児童生徒42名を含む） ・就学相談セミナー 3回 					
成果実績	項目名（単位）	令和2年度	令和3年度	令和4年度		
	就学支援委員会の意見と就学先が合致した割合（%）	87.8	84.9	87.2		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じて、就学相談を進めています。 ・就学相談セミナーでは、特別支援学級や特別支援学校等様々な学びの場の特徴や就学相談の進め方を保護者に伝えるとともに、個別に相談に応じています。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就学児の情報を収集することが困難なケースがあります。 ・児童生徒の教育的ニーズが多様化してきています。 ・就学支援委員会の意見と異なる就学をした児童生徒についても、各学校や各関係機関と密に連携し、引き続き保護者との信頼関係を築きながら、就学相談を進める必要があります。 					
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・療育支援課の巡回相談担当と連携し、就学児の情報を得られるようにします。 ・必要に応じて園や学校に観察訪問を実施し、今後の就学相談に生かしていきます。 					

【施策】 4 多様なニーズに対応した教育の推進

【施策の柱】 (1)特別支援教育の充実

細 施 策	③特別支援教育の理解・啓発の推進	担当課	関連指標
		教育センター	指標2
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校5年生に「みんななかよく」、中学校1年生に「共に生きる」というパンフレットを活用した授業を行い、教職員、児童生徒の特別支援教育への理解と啓発の推進を図ります。 ・管理職や特別支援教育コーディネーターに対する特別支援教育に係る研修を充実させ、校内でケース会議を開くとともに、組織でよりよい支援の在り方を考え、実践していきます。 ・保護者・地域・関係機関向けのセミナーの開催や特別支援学級授業公開を積極的に行い、より多くの方の特別支援教育の理解と啓発に努めます。 		
令和4年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> ・「みんななかよく」「共に生きる」の効果的な活用のため、各学校の活用状況調査を実施 ・特別支援教育に係る研修 25回 ・発達障害セミナー 17名 ・特別支援学級・特別支援学校授業公開参加者 261名 		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級・特別支援学校授業公開については、新たに市立特別支援学校も対象としました。コロナ禍ではありましたが、オンライン研修など工夫することによって、参加者が前年度よりも増加しました。(R3 182名→R4 261名) <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育への理解・啓発を推進するため、「みんななかよく」「共に生きる」の活用や発達障害セミナーについて、市民へより一層周知する必要があります。 ・教職員を対象とした研修について内容を精選し、理解を深めることも必要です。 		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・「みんななかよく」「共に生きる」の活用状況調査結果を各学校に配布し、より効果的に授業で活用できるようにします。 ・教職員の経験等に応じた内容となるように、研修内容について精選し、児童生徒への指導・支援に活用できるようにします。 ・「川越市免許法認定講習（特別支援教育）」を開設し、特別支援教育に係る教職員の専門性の向上を図ります。 		

【施策の柱】 (2)一人ひとりの状況に応じた支援

細 施 策	①多様化する学校課題を解決する事業の推進	担当課	関連指標
		学校管理課・教育センター	指標3
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの心の教育・学力向上・いじめの未然防止等、各学校における様々な課題に応じ、オールマイティーチャーを配置し、課題解決を図ります。 ・問題を抱えた児童生徒や保護者が、学校、家庭、地域、関係機関と連携して課題解決を図れるようにするため、スクールソーシャルワーカーの配置を進めていきます。 ・一人ひとりのニーズに応じた支援の実現のために学級運営支援員や特別支援教育支援員の計画的な配置を進めていきます。 		
令和4年度の主な実績	<p>【学校管理課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オールマイティーチャー配置 13校13名（小学校4校、中学校9校） <p>【教育センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールソーシャルワーカー配置 7名 ・学級運営支援員配置 33名 ・特別支援教育支援員配置 64名 		
現状・課題	<p>現状</p> <p>【学校管理課・教育センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた指導を必要としている児童生徒は、年々増加しています。 ・オールマイティーチャーやスクールソーシャルワーカー、学級運営支援員、特別支援教育支援員を必要としている学校も増えています。 <p>課題</p> <p>【学校管理課・教育センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オールマイティーチャー配置を希望する学校は多く、小学校で18校、中学校で17校から要望がありました。スクールソーシャルワーカー、学級運営支援員、特別支援教育支援員を必要としている学校からの配置要望は増えています。より多くの学校への配置が課題となっています。 		
課題解決のための取組	<p>【学校管理課・教育センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの心の教育、いじめ未然防止・早期発見、学力向上など、多様化する学校の課題に対応するため、オールマイティーチャーの配置拡充や、教育センター第一分室（リベラ）によるスクールソーシャルワーカー、学級運営支援員、特別支援教育支援員の計画的な配置を進めます。 		

【施策】 4 多様なニーズに対応した教育の推進

【施策の柱】 (2)一人ひとりの状況に応じた支援

細 施 策	②外国人児童生徒支援の充実				担当課	関連指標
					学校管理課	—
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 各学校に在籍する外国籍児童生徒のうち、特に日本語指導が必要とされる児童生徒に対して、語学指導補助員、日本語指導員（中国語）の派遣を推進し、日本語指導や学校生活への適応指導の支援等、個に応じた教育の充実を図ります。 日本語指導を必要とする児童生徒に対して、母国語での支援及び母国語に関わらず支援できる人材の確保を図ります。 関係機関や庁内関係課と連携し、日本語教室等の周知等を図ります。 学習者用コンピュータによる翻訳機能の活用や、来日後の日本語指導体制の研究を進めます。 					
令和4年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> 学校からの要請に基づき語学指導員を派遣 日本語指導が必要な児童生徒117名に対し語学指導補助員等を派遣 20名 語学指導補助員の派遣回数 1,158回 就学手続きの際における日本語教室等の情報提供 学習者用コンピュータ翻訳機能活用についての学校への助言 					
成果実績	項目名（単位）	令和2年度	令和3年度	令和4年度		
	語学指導補助員派遣回数（回）	980	972	1,158		
現状・課題	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国籍の児童生徒数は増加しています。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 語学指導補助員や日本語指導員の派遣を希望する学校は多く、日本語指導が必要な児童生徒が複数おり、語学指導補助員の派遣回数を増やしてほしいという要望も増えているため、各学校への派遣回数を増加させることが課題となっています。 					
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 語学指導補助員の拡充を進めるとともに、配置を工夫するなどして、各学校への語学指導補助員の派遣を進めます。 日本語指導資格を持つ語学指導補助員などの人材確保に努めます。 					

【施策】 4 多様なニーズに対応した教育の推進

【施策の柱】 (2)一人ひとりの状況に応じた支援

細 施 策	③教育機会均等化のための支援			担当課	関連指標
				教育総務課・教育財務課	—
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済的な理由により就学が困難な児童生徒の保護者に対して必要な援助が行き渡るよう、引き続き就学援助制度の周知を行うとともに、国や他自治体の動向等を踏まえ、認定基準を含めた適正な制度の在り方について検討を行い、就学援助制度を推進していきます。 ・ 高等学校、大学等への進学に対する支援は、国及び埼玉県の制度の拡充を考慮した上で、貸付型の育英資金制度の見直しも含め、経済的支援を真に必要としている方のための制度設計を行います。 				
令和4年度の主な実績	<p>【教育総務課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 育英資金新規貸付決定者数 入学準備金 12名 学資金 13名 ・ 大学奨学金新規支給決定者数 5名 <p>【教育財務課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和5年度入学者に新入学児童生徒学用品費等の実施数 小学校新1年生305名、中学校新1年生413名 ・ 就学援助認定者数 小学校2,640名、中学校1,543名 ・ 就学援助の判断基準に関する他市照会の実施 (20万人以上の人口を有する県内自治体と関東の中核市) 				
成果実績	項目名(単位)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	就学援助認定者数(名)	4,418	4,337	4,183	
現状・課題	<p>現状</p> <p>【教育総務課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国や県の高等学校や大学への進学に係る補助制度の充実により、育英資金や大学奨学金の申請者数は減少傾向にあります。 <p>【教育財務課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 就学援助の認定者数は減少してきていますが、国の要保護児童生徒援助費補助金の単価は年々上昇しています。 <p>課題</p> <p>【教育総務課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学奨学金の原資は寄附であるため、制度を継続するためには、今後も寄附の呼びかけを続けるとともに、新たな財源を検討していくことも必要です。 <p>【教育財務課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 単価が年々上昇していくなか、制度を維持していくためには、就学援助の定期的な判断基準の見直しを行う必要があります。 				
課題解決のための取組	<p>【教育総務課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市ホームページで大学奨学金の奨学生を紹介するなどの工夫により、財源の確保に努めます。 <p>【教育財務課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本市と同等の規模の自治体における状況調査を踏まえ、就学援助の定期的な判断基準の見直しに向けて検討を進めます。 				